

柳城

R y u j o

柳城学院報

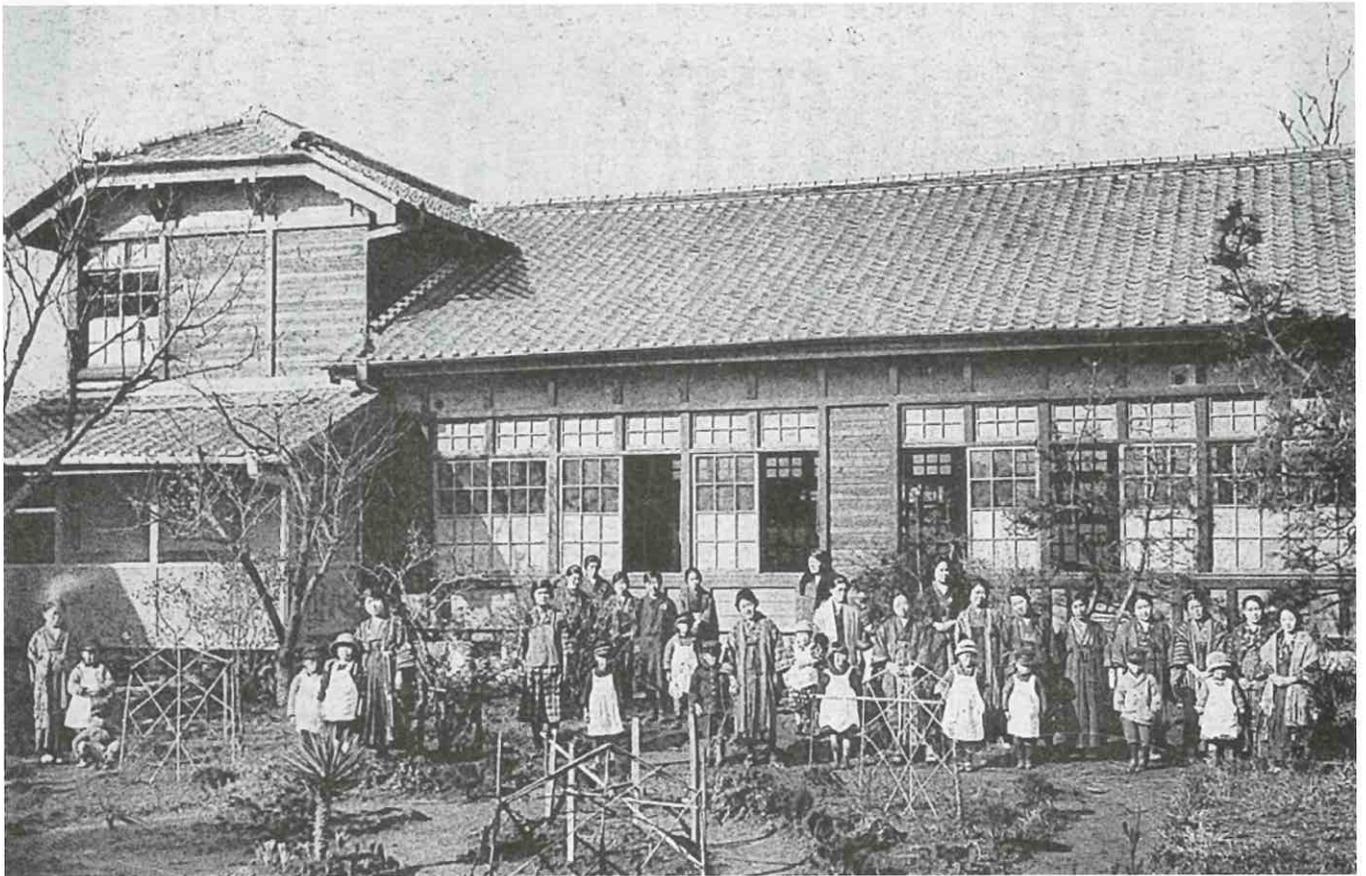
第57号

発行所：学校法人 柳城学院

〒466-0034 名古屋市昭和区明月町2-54
TEL.052-841-2635 FAX.052-841-2697

発行者：渋澤 一郎

2012年7月1日



柳城幼稚園・保母養成所

建学の精神 「愛をもって仕えよ」

目次

理事長からのメッセージ	2
学長からのメッセージ	3
聖書のことば	4
施設整備(短大・幼稚園)	4
役員人事	4
マーガレット・ヤング基金	5
東日本大震災復興支援ボランティア	5
紙芝居プロジェクト	6
就職状況	6
入試情報	7
後援会ニュース	8
同窓会ニュース	8
同窓会関東支部だより	8
りゅうじょうこどもフェスタ	9
ニューイヤークンサート	9
柳城祭	9
附属柳城幼稚園	10
附属豊田幼稚園	11
附属三好丘聖マーガレット幼稚園	12
二〇一一年度会計報告	13
新任(専任)教職員紹介	14
学院人事	14
退職にあたって	15
オープンキャンパス	16
幼稚園だより	16
三短大合同SD研修会	16

東日本大震災から1年が過ぎて...

...忘れないということ

1 年が過ぎて

早いもので、東日本大震災から1年4カ月を迎えようとしています。被災地は当初と比べますと随分復興が進んでいるようですが、人々の生活が以前のように回復されるまでにはまだまだ時間がかかりそうです。

1年が過ぎ、東北地方から離れているわたしたちはだんだんと記憶の中から震災のことを忘れてきてはいないでしょうか。日本聖公会東北教区の加藤博道主教さんは、「想像力を失わないでほしい」と訴えておられます。わたしたちは震災復興のために常時何かをできるわけではありません。しかし、忘れないということ、覚え続けるということはできるので

覚え続けているということは心の中にその事柄が留まり続けているということであり、その留まり続けていることは、ある時に必ず

実現されるのです。保育園の園長

時代に―その時は信州にいました―新潟県中越沖地震がありました。わたしのいた所も震度4でした。その日は休日でしたので保育園は休みでしたが、後である保護者の方から聞いたところでは、その保護者の子である園児は地震が起きた時、とっさにテーブルの下にもぐったそうです。それはいつも保育園の避難訓練で地震の時にも机の下に避難するという訓練をしていたからでした。

わたしたちが東北のことを心の中に留め続けていることよって、支援の必要性が生じた時にさっとそれに対応できるのです。想像力を働かせて東北の人々のこと、大震災の復興に思いを巡らせましょう。そして、必要な支援に応えられるようにしたいものです。

原発事故の波紋

さて、大震災からの復興を困難

にしている最大の原因が東京電力

福島第一原子力発電所の事故です。避難区域が少し狭まり、自分の家に戻るようになった方もおられるようですが、多くの方々はいつ帰宅できるのかさえ見当がついていません。人々の生活はどうなるのでしょうか。また、事故現場をどうするのでしょうか。多くの方々が福島を離れました。しかし、離れたくても離れられない人たちもいます。避難区域でなくても放射線量が比較的高い地域もあります。子どもたちの健康にとっては好ましくありません。(では、高齢者の方々はいいのと言いますと、そんなことはないのです。だれにとつてもよくないのです。)

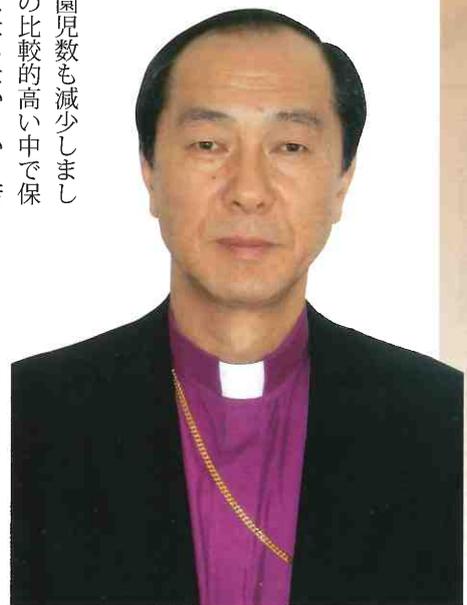
先日、福島県にある幼稚園の関係者の方の話を聞く機会がありました。その園は事故直後から毎日、園庭と園舎の外壁の除染をしなければならなかったそうです。また、園児の家庭が福島を離れるという

こともあり、園児数も減少しまし

た。放射線量の比較的高い中で保育をしなければならぬという苦悩もあります。人間関係が悪くなるということもあるそうです。原発事故は単に事故だけが問題になるのではなく、人間の生命や生活、関係性にまで大きな影響を及ぼします。人間だけではありません。動物や植物にとつてもそうなのです。この世界全体の生態系を破壊するのです。

震災復興支援

昨年は柳城生もボランティアで現地を訪れ、幼稚園児や関係者の皆さんと交流することにより、大変貴重な体験をさせていただきました。ある学生の報告には、「被災者の方同士が手を取り合って助け合っている様子を見て、勇気や希望を与える側の私たちが逆に勇気や希望をもらいました」とありました。ボランティアのすばらし



理事長 渋澤 一郎

ただけるといふところにあります。震災ボランティアは今年も計画されています。既に参加者も決まり準備が始まっています。現地での活動を通して貴重な出会いや学びが与えられることを願っています。

更に柳城では震災復興支援の一環として、被災された地域の短大受験希望者に対して学費の免除や生活費の支援を計画しています。この支援には、柳城の元学長でもあった故・リチャード・メリット先生の意思も生かされています。そのことで少しでも被災者の方々に寄り添うことが出来ればと願っています。

二〇一二年 度

名古屋柳城短期大学の重点方針

1 「建学の精神」の深化・具 体化―礼拝への積極的な参 加―

本年は創設以来一十四年目を迎えます。21世紀の現在、平和の危機、競争や排除、そして格差社会の広がりの中で、建学の精神「愛をもって仕えよ」はますます声を大にして叫ばなければならないかもしれません。いま私たちは、祈り、対話し、神の啓示に従って愛の教えに学びながら実践することが求められています。そのために何よりも、学生はもとより教職員も礼拝を大切に守りたいと思います。さらに、昨年につづいて東日本大震災で被災されたみなさんや原発事故で不安と恐怖の中で苦しんでおられる方々のために祈り、たとえ小さなことでも私たちができることを着実に実行するなど、「建学の精神」の一層の深化・具体化に取り組みましょう。

2 教育の質的向上―人間性・専門性・科学性に裏づけられた実践力の育成―
学生への最大の支援は、満足し

て学修でき、個性や能力の発見や成長を確かなものとする、そのための確かな援助にはかなりまかせん。いま保育系大学・短大に求められている期待の一つは、実践力の育成です。それは、教養教育とおしての人間性をはじめ、専門教育をおしての専門性と科学性に裏づけられた実践力でなければなりません。学生たちを動機づけ、問題を自ら発見し、考え、解決できる実践的な学力形成を目指して授業研究し、カリキュラムと授業の改善・工夫を重ねたいものです。そのためにぜひ、授業公開、授業研究などをベースに教育の質向上のために全学的な取組に着手したいと願っています。

3 学生募集の強化―受験市場のさらなる開拓―

本年度の新入学生は、現状では定員を割ってしまいました。定員不充足は二〇〇八年度を除いて過去になかったことであり、努力を怠っていた私自身責任の重さを痛感しております。今後こうした事態が続かないように、今年はず

の反省の上に立って挽回しなければなりません。いまやいずれの大学でも学生募集は教職員が総力をあげて取り組むべき全学的な仕事であり、一担当課の責任に矮小化してはなりません。本学でもぜひこうしたスタンスで一人でも多くの学生―柳城生にふさわしい―を確保できるように受験市場のさらなる開拓に向けて尽力したいと考えていますので、卒業生はじめ、関係者のご協力をお願いする次第です。

4 キャリア支援・キャリア教育の充実―就職力の強化―

昨年度はアドバイザーの先生方と就職課の努力の成果と思えますが、学生たちへのキャリア支援・キャリア教育（保育者・福祉専門職への自己発見の支援、進路のための指導及び職業的な学習援助など）が一段と深められました。例年どおり一〇〇%の就職率を達成することができ、大変嬉しく思います。ただ、キャリアとは単に職業として、キャリア教育を就職のための教育と短絡的にとらえられ

るべきではなく、人間として、また社会人としての「生き方」を中心においてとらえられる必要があります。ここ一、二年で本学のキャリア支援・教育はぜひぶん発展したと思われませんが、生き方と働き方を結びつけたキャリアのあり方については、さらに深めたい課題の一つといえましょう。

5 短大運営のガバナンスの構築―SD・FDの強化―

ここ数年、一八歳人口の減少に加え短大への進学率が低下し、短大・大学間の競争が熾烈になりました。生き残りの戦略もさまざまです。しかし、もつとも重要なことは、教育のしつかりした質保証であり、当然のことながら有為な保育者・介護福祉士を育てることだと思えます。そして、肝要なこととはそのための学内のガバナンスの構築が必須ですし、さらにそのためには教職員の資質と能力のさらなる向上が必要不可欠です。昨年は三短大・一大学の共同研究・研修が大変有効・有益な成果をあげました。これをふまえて、これ



学 長 新海 英行

らの養成校の連携・共同事業への足がかりができそうです。学内はむろん学外を含めてSD（事務職員研修）・FD（教員研修）に積極的に取り組みたいと考えています。

以上、やや教学関係を中心に五
点について本年度の重点方針を述べましたが、こうした取組が成功するか否かは、一にも二にも教職員のコミュニケーションの円滑化と協力・信頼関係の有無にかかっています。ぜひ短大のみならず附属幼稚園との連携・協働も大切に、柳城の「絆」をさらに一層強くできる一年としましょう。皆様のご指導・鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

聖書のこゝとば

「主は人の一歩一歩を定め御旨にかなう道を備えてくださる。人は倒れても、打ち捨てられるのではない。主がその手をとり上げていく、くださる。」

詩篇37編23節24節

朝9時前にマタイ教会の扉を開けて外を見ると向い側に登校して来る多くの学生の姿が見られます。友達と話しながら、一人で黙々と歩いて、それぞれ若々しく元気な姿が次々と建物の中に吸い込まれていきます。それは、1年生にとつてはようやく慣れてきた高校までとは違った日々であり、2年生、専攻科生にとつては、残された学生生活で予定に追われる忙しい日々であるのかもしれない。

学生時代は、授業を中心に色々なことに追われて自由な時間がないような気持ちになります。それでも考えることは制約なしに自由です。日常的な好きな食べ物や着るものから、恋愛の事や将来の人生までその幅は際限がありません。しかし、それは一方で悩みを深くしたり、不安に襲われたりすることにもなります。将来に対する希望と同時に漠然とした不安があるのは誰しも同じです。

日々の中では、うまくいくこともあれば、失敗することもあります。極端に落ち込むこともあれば、体調不良になることもあります。けがをしたり、病気になることもあります。そんな時に試験でも重なれば最悪の気持ちに襲われることは誰しも避けられません。しかし、長い目で見てみれば、そうしたことは、誰にでも同じようにあります。もちろん試験の時にひどい病気になる人が、そうそういるわけではありませんが、別な形で別な時に困ることが起きるといことは、誰にでもありうることです。そうしたことを考えると人というものは、いかにして生きていくのが良いのでしょうか。結局は、その時その時を一生懸命努力して悔いなく自分の能力を発揮すること以上にすべきことはない、ということだろうと思われまます。自分のことを振り返ってみると、自分の人生は決して自分の努力だけで切り開いてきたものではなく、思いがけない人との出会いやめぐり合わせ、そうしたことも含めてあると思えます。聖書の言葉は、じつくりと考えた時に心に響いてきます。

名古屋柳城短期大学 チャプレン 司祭 ペテロ 田中誠

施設(キャンパス・園舎)整備の状況について

総務課 中村 雅

六月現在での柳城学院の諸施設の整備状況について述べます。最初に名古屋柳城短期大学の状況ですが、第一に、今年3月まで入居者がいたマンション「ルナツイン」の入居者が四月で退去いたしました。これにより、学内の教職員に対しマンションを解体した後の土地の利用方法について提案をして頂く様、依頼をキャンパス整備委員会から行い、提案内容を集計中です。第二に、昨年来仮設ハウスを使用していた警備員室を、今年中に正門東側へ正式に設置する予定です。なお、このハウスには防災用品を備蓄する予定であることから、名称を「防災用品備蓄倉庫」とし、警備員室の機能も持たせることにしています。これと併せて、従来から問題となっていたロータリー部分へ雨水がたまることへの対策を行うことを検討しております。第三に、体育館の屋根防水が経年劣化してきており、対処療法的に修理を行ってまいりましたが、限界であることから全面補修を行うことと致しました。

次に、今年から新しい園長が就任した豊田幼稚園の状況ですが、防災対策として園舎内外のガラスに飛散防止のフィルムを貼ることに致しました。また、老朽化して機能が低下したりしている空調機について更新をすることとしております。これに合わせて今まで空調機が設置されていなかった厨房にも、衛生管理上の観点から空調機を設置することとしております。なお、昨年度に予定した上水配管の更新については、園長及び園教諭の皆様の検討結果から、これを行わないことと致しました。一昨年に園舎を増築した三好丘聖マーガレット幼稚園では、建設業者と設計事務所による一年点検を実施した結果、特に目立った劣化はありませんでした。また、降雨時に園庭から砂が市の排水溝に流出することが問題となっていた点も、増築の際の法面の改修により改善されています。今年、増築したホールで中部教区の行事開催も予定されており、種々の行事への利用が期待されます。

最後に柳城幼稚園ですが、昨年に予定をした内外壁の大規模な補修については、予算の関係からこれの実施を見送ることと致しました。また、園舎整備とは異なりま

すが、園舎の耐震性について保護者へ説明する必要があることから、園舎に耐震性が担保されている書面を大成建設(株)から提出してもらい、園長から保護者へ説明してもらっております。

以上、簡単ですがキャンパス・園舎の整備状況を報告させていただきました。

役員人事

理事・監事

理事長 洪澤一郎
理事 新海英行、池田正毅
伊藤秀章、関 侯子

野村 潔、長縄年延
松本 勝
監事 徳山義章、塚田一宣

評議員

洪澤 一郎氏、新海 英行氏
伊藤 秀章氏、関 侯子氏
柴田 陽子氏、田中 誠氏
中村 雅氏、野々垣文成氏
平松ちづ代氏、野村 潔氏
松本 正俊氏、松本 勝氏
村上 誠氏、渡邊 信子氏

マーガレット・ヤング基金の創設

国の私学助成の減額が予想される中で、教育研究環境の整備や拡充、学生支援を継続的・安定的に続けるための基金創設がかねてより望まれていました。また2011年度より学校法人への個人からの寄附に、所得税の「税額控除制度」が導入されることになりました。この「税額控除制度」は寄付者の減税効果が大きく、今後の募金活動に備え、学院として、この「税額控除制度」が利用できる「税額控除対象法人」になるべく要件を整えていく必要があります。こうした状況をふまえ、学院では昨年度『マーガレット・ヤング基金』を創設し、卒業生、在学生、幼稚園保護者、教職員、元教職員等呼びかけ2011年11月より募金を開始し致しましたところ、2012年3月末現在、178件、1,857,000円が寄せられ、「税額控除対象法人」になる条件に着々と近づいてきました。今後とも変わらぬご支援をお願い致します。

東日本大震災ボランティア活動報告

キリスト教センター 尾上 明子

昨年度より、これまでの宗教委員会の役割を学内活動に留まらず、視点をより広く外に向けた活動をという学院の方針によりキリスト教センターが設置されました。委員会では2年前から様々な震災が東北地方を襲いました。本学もすぐに、募金や支援物資の募集、紙芝居プロジェクトと協働し、これまでのキッズ紙芝居優秀作品

(印刷)と絵本を被災地のキリスト教関係の幼稚園・保育園に送るとい活動をして、そして、日本聖公会が行なっている「いっしょに歩こうプロジェクト」のボランティア活動に参加いたしました。また、学生からは、柳城祭の売り上げ金の全てが被災地のために捧げられました。今回は、紙面が限られているため、ボランティア活動のご報告を簡単にしたいと

思います。

9月1日〜4日まで、18名の学生と5名のスタッフが2つのグループに別れ活動しました。一つは仙台を拠点にしながら、宮城県度会郡山元町のふじ幼稚園訪問、南三陸町志津川でのフィリピン女性の自立のための支援活動など。一つは気仙沼市の愛耕幼稚園訪問、岩手県一関市室根聖ナタナエル教会での子ども会主催などでした。これらの大きな目的は、現

地に立ち現状を自分の目で見、知ること、そして子どもたちと触れ合い、保育科の学生として保育者の役割や子どもの実情を知ることでした。ふじ幼稚園は、送迎バスが津波で流され11名の園児と1名の先生が亡くなるという大きな悲しみを抱えての中、園長先生からお話を伺ったり、子どもたちと触れ合うことにより今も遊びの中に現れている傷跡(お葬式ごっこをする、雨が怖いなど)を垣間見、

多くのことを学ばされました。昨年の創立記念礼拝では報告会を催し、18名の学生が皆発言し大学全体でこの活動から得たものを分かち合ったことは意義深いことでした。多くの困難と悲しみのなかにある方々を覚え、私たちが祈り続けることが求められていることを教えられました。(詳しい内容は、学生の感想文とともに「報告書」が発行されています。)



室根子ども会活動



ふじ幼稚園仮園舎にて

紙芝居プロジェクト

プロジェクト実行委員長
 齋藤久美子

●プロジェクトの成果を教育に

2005年に、プロジェクトを立ち上げて7年が過ぎました。フォーラムをもとにつくった3冊の小冊子は、保育者、地域ボランティア活動の研修に活用されています。また、「紙芝居・ネット」の右手和子先生の演じ方ライブなどと組み合わせ、授業「保育内容指導法言葉」や「教育実習法」、「総合演習」などで、学生の紙芝居教育に役立てています。

●「手づくりキッズ紙芝居コンテスト」

コンテストも今年で6年目です。手づくり紙芝居を保育に取り入れて、毎年応募してくださっている園があります。本学の附属園、学童保育園などです。そんな園では、子どもたちの間に紙芝居が伝承されてきたとことです。また、受賞者の中には年中行事になっているという子どももいるそうです。

最優秀作品は、印刷紙芝居として制作しています。東日本の被災地にお送りしたところ、とても喜んでいただきました。紙芝居作家の長野ヒデ子先生や、やべみつりの先生からも絶賛をいただいています。学生や学外の方々からの要望に応じて、実費でお分けすることになりました。(小冊子同様、図書館までお問い合わせください。)

●紙芝居はアナログなコミュニケーションツール

子どもたちのほとんどが、演じてもらっ



お問い合わせは図書館へ



被災地の幼稚園から届いたお礼

て観ることで紙芝居を経験します。しかし、いったん紙芝居を作ってみると、紙芝居の面白さは何倍にもなるようです。コンテストに繰り返し応募してくる子どもが多くなるのが、このことを物語っています。作ると今度は、誰かに観てもらいたくなります。「演じて」と大人に差し出す子、自分で演じてみたくなる子もいます。紙芝居は、心の底にある思いを絵とお話で表現し、演じることで伝えるという、複数の表現手段をもっているコミュニケーションツールです。保育の中で、お家で、子どもと一緒に紙芝居を作って演じてみてください。きっと、子どものいろいろな思いに気づかされることでしょう。

2011年度 就職状況

過去最多の卒業・修了者数と就職者数。そして、就職内定率100%!
 「保育者になる夢が叶いました!」「利用者さんから信頼される介護士になります!」等々、数多くの学生が、卒業・修了式の際に笑顔で夢を実現した喜びやこれからの決意を話してくれました。

2011年度は、保育科、専攻科保育専攻、専攻科介護福祉専攻合わせて257名が卒業・修了しました。そのうち224名が就職を希望し、全員が無事就職することができました。この4月より、保育・介護等の世界で社会人として羽ばたいています。

柳城への厚い信頼に支えられて:

就職先の種別データを見ますと、私立の幼稚園、保育所が全体の約80%を占めています。そして、そのほとんどが正規での採用でした。求人件数も100件以上に増えた前年度よりも更に約40件増加しており、保育現場からの柳城への信頼と更なる期待を感じずにはいられません。

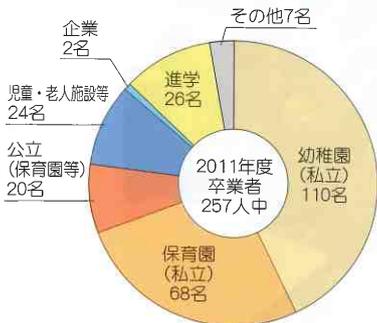
保育現場からは『温かい笑顔で挨拶ができる』『ピアノなど保育実践力に優れている』など、人柄、保育技術とも評価されており、柳城生には安心して子ども達を任せられるとの声を数多くいただいております。

卒業された諸先輩方が長年をかけて築かれた良き伝統と実績に感謝しつつ、今後もそれをしっかりと守っていくための努力を続けて参ります。そして、学生一人ひとりが満足度の高い就職ができることを目指して、教職員全体でより強固な連携を図り、

学生に対するきめ細やかな指導、支援を行っていきたく思います。

	卒業者数(人)	就職希望者(人)	就職率(%)	進学者(人)	就職希望なし(人)
保育科	224	191	100	26	7
専攻科	保育専攻	8	100	0	0
	介護福祉専攻	25	100	0	0
計	257	224	100	26	7

(2011年3月31日現在)



就職課では卒業生に対する再就職の斡旋を行っております。再就職をお考えの方は就職課までお気軽にご相談ください。なお、ホームページにも詳細を載せております。求職票様式のデータもありませんのでご利用ください。

就職課直通ダイヤル

0522-8488-8291

Eメールアドレス

syusyoku@ryujocjp

2013年度 入試情報

二〇一三年度 入試結果

保育科二〇〇名、専攻科保育専攻八名、専攻科介護福祉専攻一九名の新生が入学しました。十八歳人口の減少や高校生の四大志向など短期大学にとって競争的・外部環境の中で保育科二〇〇名の学生を迎えることができたことは、本学一四年の歴史と伝統に基づく教育内容や学習支援が、社会に認められている結果であると自負しております。

また、実習先や就職先の園長先生からは、「柳城生はまじめで明るく素直」、「保育に取り組み姿勢が良い」、「保育の内容を豊かに受けとめることのできる基礎的な力を持っている」などと高い評価をいただいております。

今後におきましても、更なる教育の質の向上、学生本位の教育の充実を目指してゆきます。保育、介護福祉への進学を希望される方がお見えでしたら、是非、本学への受験をお勧めいただければと思います。

二〇一三年度入試概要

本学の入学試験には、公募制推薦A入試(専願)、公募制推薦B入試(併願)、AO入試、一般A入試、一般B入試、社会人対象等の特別選抜入試、特別推薦入試の試験があります。この中の特別推薦入試には、「同窓生推薦入試(下記募集要項参照)」や「キリスト教会推薦入試(下記募集要項参照)」が含まれています。まず、「同窓生推薦入試」は、本学を卒業されたお方のお子様、お孫様、ご兄弟を推薦していただく入試です。特にこの入試は、合格者の中から

上位三名の方に対して、入学金が免除される特典があります。次に「キリスト教会推薦入試」ですが、二〇一三年度入試から出願資格を拡大します。その内容は、日本聖公会を含む日本キリスト教協議会加盟の教会または、カトリック中央協議会の教会の信徒並びにその子弟までを対象にしました(二〇一三年度入試変更点参照)。また「同窓生推薦入試」と同様に、合格者の中から上位三名の方を対象に、二〇一三年度入試において、東日本大震災に被災された受験生(入学予定者)を対象にしました。

支援を行います。この支援内容については、左記の内容をご覧ください。他に二〇一三年度入試から変更される事項がありますので、左記の入試変更点をご確認ください。このように本学は、多様な入試を実施していますので、自分に合った入試を選んでください。入試広報課では、入試に関する相談やお問い合わせを行っています。お気軽にお電話ください。(入試広報課)

2013年度入試変更点

- キリスト教会推薦入学試験の出願資格の対象者拡大
日本聖公会を含む日本キリスト教協議会加盟の教会またはカトリック中央協議会の教会の**現在受聖餐者**
↓
日本聖公会を含む日本キリスト教協議会加盟の教会またはカトリック中央協議会の教会の**信徒並びにその子弟**
- 公募制推薦B入学試験に複線型入試を導入
○公募制推薦B入学試験Ⅰ(従来から実施)
小論文(長文読解型)、面接
○公募制推薦B入学試験Ⅱ(2013年度入試から導入)
適性検査(国語基礎学力テスト)、面接

東日本大震災で被災された受験生(入学予定者)への支援について

本学は創立114年の歴史と伝統を有し、聖公会を基盤とするキリスト教主義の東海地区で一番歴史のある保育者養成校です。建学の精神「愛をもって仕えよ」に基づき東日本大震災で被災された受験生(入学予定者)を対象に「キリスト教会推薦入学試験」を活用し、またリチャード・A・メリット基金委員会の協力を得て以下のような経済的支援を行います。

- 支援の対象者
次の(1)または(2)のいずれかに該当する2013年度入学試験の受験生(入学予定者)で「キリスト教会推薦入学試験」の*受験資格に該当するもの。
(1) 東日本大震災により、その主たる家計支持者が居住する地域が災害救助法適用地域に指定された受験生(入学予定者)＝罹災(被災)証明書がとれる方
(2) 東日本大震災により、その主たる家計支持者が死亡または行方不明となった受験生(入学予定者)＝戸籍抄本等事実が確認できる書類がとれる方
*受験資格：日本聖公会を含む日本キリスト教協議会加盟の教会またはカトリック中央協議会の教会の信徒並びにその子どもときょうだい。
- 支援の内容
(1) 学費等免除
①入学検定料の免除 ②入学金・授業料・教育充実費の免除(2年間)
(2) 生活費支援
本学の第4代学長リチャード・A・メリット氏のご厚意により設立された「リチャード・A・メリット基金委員会」が中心になって以下の入学後の生活費支援を行います。
①給付金額：年間120万円(返済不要) ②給付期間：2年間
(3) 支援人数
若干名
- 通知時期
本支援希望者には選考のうえ、キリスト教会推薦入学試験合格発表とともに、採否を通知します。
- 問い合わせ先
〒466-0034 名古屋市昭和区明月町2-54 名古屋柳城短期大学 入試広報課 TEL 052-841-2635(代表)

同窓生推薦入学試験募集要項

本学の卒業生、在校生の子女、兄弟姉妹で、本学の教育方針を理解し、本科への進学を希望する人のための入学試験です。
本科の教育内容を修得できる学力を有し、高い学修意欲と保育者を志す明確な意思を持ち、保育者の素養としての明朗快活さを備えた人を求めます。
面接、提出書類により総合的に判断します。

■募集人員

若干名

■出願資格

親または兄弟姉妹が本学卒業生、在学生で次の条件を満たす者

- 高等学校もしくは中等教育学校を2013年(平成25年)3月卒業見込みの者
- 本学を専願とする者
- 高等学校最終学年第1学期まで、または前期までの全体の評定平均値が3.3以上の者
- 出願時のピアノ演奏能力がチェルニー100番練習曲の30番を修了している者
- 将来、保育士・幼稚園教諭を志す意思と熱意のある者
- 保育者の適性の一つとして健康で明朗快活な者

■試験日程

出願期間	入学試験日	可否通知発送日	入学手続き期間
10月1日(月)～ 10月12日(金)	10月20日(土)	10月25日(木)	10月26日(金)～ 11月2日(金)

■選考方法・選抜日時

面接および調査書等書類審査により選抜します。

入学試験日	内 容
10月20日(土)	面 接

■特典

合格通知をした者のうち、上位3名の入学金を免除します。

キリスト教会推薦入学試験募集要項

日本聖公会を含む日本キリスト教協議会(NCC-J)加盟の教会またはカトリック中央協議会の教会の信徒並びにその子弟で、本学の教育方針を理解し、本科への進学を希望する人のための入学試験です。

本科の教育内容を修得できる学力を有し、高い学修意欲と保育者を志す明確な意思を持ち、保育者の素養としての明朗快活さを備えた人を求めます。
面接、提出書類により総合的に判断します。

■募集人員

若干名

■出願資格

次の要件を満たす者

- 日本聖公会を含む日本キリスト教協議会(NCC-J)加盟の教会またはカトリック中央協議会の教会の信徒並びにその子弟で、将来、保育士・幼稚園教諭を志す意思と熱意のある者
- 本学の建学の精神に賛同し、本学を専願とする者
- 保育者として適性がある者として、所属教会の牧師またはそれに準ずる聖職者が推薦する者
- 原則として全体の評定平均値が3.0以上の者
- 次のいずれかに該当する者
 - ①高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者または、2013年(平成25年)3月卒業見込みの者
 - ②通常の課程による12年の学校教育を修了した者および2013年(平成25年)3月までに修了見込みの者
 - ③外国において学校教育における12年の課程を修了した者および2013年(平成25年)3月までに修了見込みの者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
 - ④文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
 - ⑤文部科学大臣の指定した者

■試験日程

出願期間	入学試験日	可否通知発送日	入学手続き期間
10月1日(月)～ 10月12日(金)	10月20日(土)	10月25日(木)	10月26日(金)～ 11月2日(金)

■選考方法・選抜日時

面接および調査書等書類審査により選抜します。

入学試験日	内 容
10月20日(土)	面 接

■特典

合格通知をした者のうち、上位3名の入学金を免除します。

後援会 News

後援会会長あいさつ



柴田 陽子

本年度、後援会会長を務めさせて頂いたべく事になりました。この一年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

娘がこの柳城に入学して一年が経ちました。厳しくもありやさしくもある大変熱心な先生方の御指導のもと日々学び、びっしりある授業をこなし忙しい毎日を通して

びここで学べてよかったです。本当に私はツイている」と、よく口にされるようになりました。

すでに三度の実習も経験し、毎回違う園にもかかわらず、回を重ねることに緊張感と共にわずかな余裕も生まれ、園児から学ぶことも多々あるようで、少しずつ成長しているように思います。

「愛をもって仕えよ」柳城のこの建学の精神に則り、学生の皆さんにはこれから社会に出て出会う

子供たちのために、先生方から教わった事を如何なく発揮できるように、日々精進していただきたいと願っております。そして学生の皆さんがより多くの事を学べるように、保護者の方々の代表として私たちが本校のお手伝いをさせていただきます。

◆後援会役員

会長	柴田 陽子	2年
副会長	佐々木宏江	1年
会計監査委員	山田 和江	2年
会計監査委員	佐藤 雅子	1年
委員	櫻井 薫	2年
	寺田 正美	2年
	伊藤 春美	2年
	伊藤 典子	2年
	酒井亜由美	2年
	西村 朝美	2年
	柴田 雅子	1年
	渡邊 有美	1年
	内藤 晴美	1年
	早瀬由美子	1年
	稲垣 恵子	1年
	梶原 啓子	1年

同窓会 News

のぞみの会 会長



鎮旗 真弓

「はじめまして」の方がほとんどだと思います。今年度より、長年ご尽力くださっていました青山先生から、同窓会のぞみの会の会長を引き継がせていただきました。昭和62年度卒の鎮旗と申します。

卒業して5年程、保育の職に就きましたが、その後三児の子育てに追われ、あつという間に卒業から25年。その間、短大とはつながりもなく過ごしてまいりましたが、去年秋ふと、久しぶりに同窓会に出席したところ、同窓会の窮状をお聞きして、お手伝いさせていただきます。

6月には同窓会総会を開催し、40名近い方に出席していただきました。また、秋の柳城祭の際には、例年通りのカフェコーナーを開く予定ですので、ぜひ、私を含めた新しい役員の顔や人となりを見にいらしてください。お待ちしております。

同窓会(のぞみの会)だより

のぞみの会関東支部会長

筑井 宏子

2011年の関東支部会は、10月17日に本部会長の青山道様をお招きし横浜で行われました。役員引き継ぎ、逝去された方へのお祈りのあと青山様から最近の母校、同窓会、今後の希望などのお話をいただきました。現在は男子学生も学ぶ、専攻科のある活発な学び舎であるとの事を知り嬉しく感じた事でした。またその際「東日本大震災の被災地への支援ができれば良いが」との意見があり、賛同されました。私達に関係の深い、被災し、園舎の建て替えの計画をしている釜石神愛幼児学舎に支援させて頂くことに致しました。会計の一部とカンパを合わせ10万円を送らせていただきました。続いて参加された22人の方々と会食、賑やかな会話が弾みました。今年の関東支部会は10月13日に聖公会神学院で行われます。院長先生に講演をお願い致しました。後ほどご案内をします。奮ってご参加下さい。

ホームカミングデーのお誘い 無料

日時 2012年11月3日(土・祝)
10:00 ~ 15:00
柳城祭開催時

場所 名古屋聖マタイ教会 一階ホール

美味しいお茶とお菓子を用意しております。在学生の皆様もどうぞおいでください。

〒276・0043
八千代市萱田2220・72

イベント情報

りゅうじょうこどもフェスタ

2012年2月4日(土)午前10時開幕。15時の終了まで大勢の子どもたちで賑わいました。今年度は初めて音楽表現と造形表現が加わり、体育館では身体表現セッション「りゅうじょうシアター」、2号館1階では音楽表現セッション「おとであそぼう」、学生ラウンジでは造形表現セッション「つくってあそぼう」が行われました。

今年度は11月3日(土・祝)柳城祭との合同開催です。昨年度に引き続き、3つの表現を今年度は体育館で行います。造形表現セッションはフロアの一部を会場とし、作って遊べるブースを。音楽表現セッションはステージでオペレッタ。身体表現セッションはパフォーマンスを。それぞれ趣向を凝らして柳城生らしい「こどもフェスタ」にします。



皆さんのお越しを心からお待ちしております。ご近所の方、同窓生の方、お友達、みなさんでお誘い合わせの上お越しください。小さなお子様大歓迎です。

ニューイヤークンサート

名古屋柳城短期大学ニュー・イヤークンサートは昨年度で第30回を迎えました。音楽担当の先生方と学生のハンドベルとコーラスの演奏会は、名古屋伏見にある三井住友海上しらかわホールにて1月15日(日)に開かれました。第一部の先生方の演奏はモーツァルトの生涯とその作品でした。モーツァルトの有名なピアノと声楽の作品をそれは美しく演奏されました。第二部では学生のハンドベルとコーラスの響きをお送りしました。ハンドベルはバッハの主よ人の望みの喜びよとパッヘルベルのカノンでした。2曲共に有名な曲でキリスト教主義の本学にはぴったりでありました。コーラスは本学の声楽の授業で取り上げられている有名な合唱曲にピアノとハンドベルとの伴奏で最後を盛り上げました。この演奏会は残念ながら諸事情の為今回で終了しました。同窓会「のぞみの会」をはじめ多くの方々のご支援を受けました。誠にありがとうございました。



柳城祭

第43回柳城祭は「WA∞友達の輪∞」をテーマに例年通り開催されました。3.11の東日本大震災をきっかけに学生たち自身が人とつながることの大切さを実感し、今年はこのテーマに決めました。大学祭を通して人との絆・つながりを見つめ直し、自分たちの無限大の力を発揮し、より多くの人々との輪を作っていました。例年通り1日目は柳城生の為のお祭りとして外部公開はせず、2日目のみを一般公開としました。1日目のプログラムは模擬店、有志発表、有志ピアノ連弾、ステージ発表が行われました。2日目は1日目に加えチャペルでの模擬結婚式、



体育館でのお笑いステージ(ゆってい)が企画され、並行してオープンキャンパス、保護者会懇談会、キッズ紙芝居表彰式も行われました。盛りだくさんのプログラムを学生を始め、保護者の方、卒業生、外部のお客様たちが大いに楽しんだ大学祭でした。この大学祭を起爆剤として学生は勉学に、実習に頑張ってくれています。

附属柳城幼稚園



今年度は年長組26名、年中組28名、年少組38名でスタートしました。

預かり保育も、担当の先生が考えた月2回の毎回違った『おたのしみ』もあり、多い時で40人の子どもたちが集まっています。週2回、2コースの2才児教室も予約待ちの状態、未就園児親子教室も、平均25組以上の親子の楽しい時間となっています。0歳から2才未満の子どもとお母さんの「ファミリークラス」、保護者対象の「カフェママ」、「子育て相談」を私も担当し、若いお母さん方を応援していきたいと思っています。

園では毎日、園庭での遊び時間をたっぷり取っているため、異年齢の交わり、担任以外の先生との関わりも多く、子どもたちが神さまに守られて、のびのび育っていることに感謝しています。

(園長 中野早苗)

年長「青組」

進級し、少しずつ年長の顔つきになってきた子ども達。園庭の真ん中に立つ鮮やかな緑のいちじょうの木の下で、風を感じながら礼拝をしたり、誕生会で食べるカレーを入れる野菜を、毎月包丁を握って切ったりと様々な経験を重ねています。先日は、年長行事の椅子作りを行いました。金づちで釘を打ち、一人一脚作ります。途中、釘が曲がったり、金づちで指をかすめたりする子ども…しかし、あきらめず最後は、「できた!!」という自分の力で作った喜びを全身で感じていました。この気持ちが自信となり、糧となっていくのだと思います。

何でも自分達で、やりたい!!という思いが溢れている子ども達。その姿を温かいまなざしと共にたっぷり受け止め、認めていきます。

(担任 青木万莉)

年中「黄組」

年中組に進級して、もうすぐ2ヶ月が経ちます。幼稚園の中で一番小さいお友だちから、1つお兄さんお姉さんになり、子どもたちも『自分でやってみよう』という気持ちを持って、いろいろな事に挑戦していきま

す。

今年、年中組は麻袋を使って落花生を育てています。硬い殻からみんなで種を出し、土の中に埋めました。水をたっぷりあげて、みんなでおまじない。「おおきなあれ!」と魔法をかけました。それから、お当番さんが水をやるだけでなく、「おおきなあれ!」とこっそりおまじないをしていってくれる子がいます。小さな芽が出て太い根が土の中に伸びてきました。神さまがくださった恵みの成長を見守っていこうと思えます。

(担任 水野里香)

年少「赤組」

入園して2か月が過ぎました。4月は「お母さん!!」と泣いていた子ども達も、笑顔で登園できるとなりました。

時々涙が出ることもありすが、お友達が頭を撫でてくれたり、涙を拭いて「大丈夫だよ」と声をかけてくれる子もいて、私も温かい気持ちになります。園庭では、砂場でケーキやカレーライスを作ってパーティーをする子、三輪車の後ろにお友達を乗せて園庭を走る子、牛乳パックやビニール袋に草や花を集めたり泥水を入れて遊ぶ子など様々な姿が見られます。

これからも様々な経験をする子ども達。楽しいことだけでなく、困難も経験すると思います。その子ども達に共感し、寄り添いながら、毎日を大切に過ごしていきたいと思っています。

(担任 田中友紀恵)

満3歳児「桃組」

今年度は5月に1名の満三才児

を迎えスタートした桃組さん。6月には2名が入園し、クラスの中で子どもどうしの関わりがみられるようになりました。隣の部屋の年長児が部屋を訪ねてはやさしく声をかけてくれています。園庭でもやさしいお姉さんお兄さんが三輪車の後ろに乗せてくれたり、砂場でご馳走を作ってくれたり、楽しい異年齢の交わりがみられます。

月を追うごとに一人二人と友だちが増え、賑やかになってゆく桃組です。一人ひとりの発達状態に合わせてゆったりとした時間の中で各々に応じた援助をしていきます。

さあ、今年度末3月にはどんなクラスになっていくかを楽しみに、日々の出合いを大切に過ごしていきたいと思っています。

(担任 織田 純代)





附属豊田幼稚園

2012年度スタート

園庭に立つ3本の桜の木の開花と共に、豊田幼稚園の新しい一年が始まりました。

年長児65名、年中児61名、年少児40名、満3歳児2名からのスタートでした。

満3歳児クラスは3歳の誕生日を迎えた翌月から入園できる為、今後も8月・9月入園を心待ちにしている子どもたちがいます。

また、子育て支援事業もスタートしました。親子教室『ぐるんぱ』と2歳児教室『いちご組』は定員いっぱい、いつも賑やかです。不定期開催の園開放『にじいろひろば』や園庭開放にも親子が訪れ、家庭とは一味違った楽しい時間を過ごしています。

子育て支援事業の日には、園児に混じってあどけない姿があらこちらで見受けられます。近い将

来の園児たちです。

のびのび外遊び

すっかりお姉さん気分で腰をかめ小さい子の手をとり園庭の遊具巡りを楽しんでいる園児、サッカーゴールにシュートを決めてカッコいい所を見せ満足顔の年長児、大きい子に負けじと三輪車で走り回る子、砂場に水をせつせと運び、ご馳走作りに精を出す子、土の湿り具合を調整しながら泥団子作りにいそしんでいる子、花壇の隅やプランターの下を覗き込み団子虫取りに夢中な子、規則正しく並べていたプランターはいつの間にか微妙に移動しゆがんでいるのです(笑)、日々緑が濃くなる自然いっぱいの広い園庭は、子どもたちの活気に溢れています。

手作りクッキー

『お母さん』

今年の母の日参観日にも、以前から伝統として受け継がれているお母さんの顔を形作った大きな大きなクッキーをプレゼントしました。

クッキーのタネを粘土細工のように自由自在に表現できるのが園児にウケています。3歳時には目と口と髪の毛だけだったのが、4歳5歳時には眉やまつげが付けら

れたり、髪の毛をカールさせたり・・・。出来上がった作品は、大好きなお母さんによく似ています。

一年毎に変化し成長が見られると、お母様方にも大好評です。中には感動のあまり涙する方も、とても素晴らしい心のこもったプレゼントになっています。

子どもが主役

園児が主体的に動けるよう今回は次のような工夫をしてみました。

工夫1 欠席者数の連絡メモ.. 担任がその日の欠席者数を記入した小さな手紙を、当番の園児が職員室に届けます。「〇〇組です。お願いします」といつて職員に手渡します。職員は受け取りながら、「どうもありがとう」と答えています。

工夫2 合図のベル..自由遊び終了を知らせるのは、これまで放送や大人の声でした。

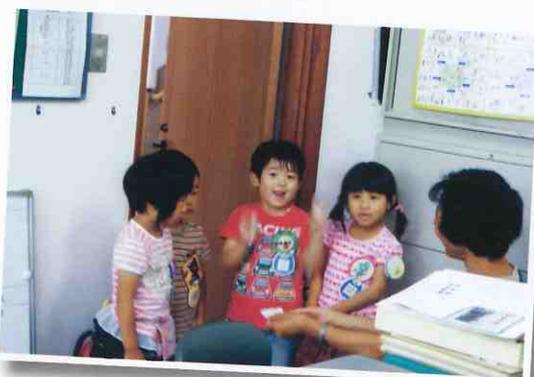
この度、年長児の当番に頼むことに。のどかで優しい音色のカウベルをカランカランと鳴らしながら、誇らしげな表情の当番が園庭を一周します。

子どもたちはお手伝いが大好きです。そして、どんなに小さな子どもでも責任を持って自分の役割

を全うしようとします。このような姿に私たち大人は、子どもの中に秘められた思いやりや真摯な態度やひたむきさに触れ、いつも感

動を覚えるのです。

(主任 前崎初子)





して充分遊び、「安全でおいしい給食」をお腹いっぱい食べる。こんな園生活が生きる力につながるかと考えています。続いてその活動の様子をお伝えします。

(園長 平松ちづ代)

「じつくり遊ぼう」

毎月一回行っている「じつくり遊ぼう」は、全園児と一緒にやりたい遊びを遊びこむ機会として始めました。6月は室内でじつくり遊びました。年長組の部屋は、グループ活動でお化け屋敷とペープサートの観劇会場。実際にお化け役になったり、演じるだけでなく呼び込みをして楽しんでいました。

階段の踊り場には、各クラスのおままごを集め、広いコーナーで「ごっこ遊び」をしました。すぐに異年齢のグループが出来、家族ごっこが始まりました。

ホールでは、ラQでロボットや大きな恐竜を作ったり、たくさん粘土で遊んだり、紐通しを楽しんだりと、興味のあるものを選んで遊んでいました。そして一番人気は曼荼羅の塗り絵。それぞれの感性で色の配色を考えながら色鉛筆できれいに塗り上げていました。「お母さんへのプレゼントにする」と大切にカバンに入れて持ち帰る子供たち、頑張りを受け止めてもらうよい機会となることで

しょう。ゆつくりとした時間の中で自分の遊びたい遊びに集中して取り組む事が出来るので、子どもたちはとても楽しみにしています。子どもたちからの希望も取り入れて、さあ次回は何の遊びに取り組ましようか？

(教諭 林 知子)

「大好きなお給食」

朝、子どもたちの元気な声が響き始める頃、厨房から美味しそうなにおいが漂ってきます。子どもたちだけでなく、私たち教師も「今日のメニューは何だったかしら」とお給食が待ち遠しくなります。地産地消、自然のおだし、調味料にもこだわったお給食は、とてもおいしく、素材そのものの味が生かされています。毎日「せんせい、これおいしいね！」の一言と笑顔がお部屋に広がります。

毎年5月には、好評の親子での給食会があります。ホールがレストランに早変わりし、学年全体でいただきます。今年は9品のバイキングでした。お母様方には、お味・量ともに満足していただきましたが、何より、子どもたちの旺盛な食欲や、日頃家庭では好んで食べない和え物や煮物を喜んで口にしてる様子が驚かれています。

アレルギーの子ども達に対してはも細かく対応して下さっている

ので、食べるものがみんなと違うというイメージは少なく、気持ちよくいただいています。子どもたちが育てた野菜や年長組さん手作りのお味噌を給食に使っていただくこともあります。

これからも、食の喜び、大切さを学び、感謝しつつ、大好きなお給食をおいしくいただきます。ごちそうさま。

(主任 菅原 敏子)



2011年度会計報告

資金収支の状況 (単位千円)

	科 目	2010年度	2011年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	659,862	669,779
	手数料収入	12,906	12,646
	寄付金収入	10,424	8,301
	補助金収入	194,609	189,349
	資産運用収入	11,297	13,867
	資産売却収入	1,466,122	1,209,284
	事業収入	41,170	44,238
	雑収入	7,531	21,148
	前受金収入	157,490	61,757
	その他の収入	95,164	10,032
	資金収入調整勘定	△171,604	△178,294
	前年度繰越支払資金	1,194,338	1,232,342
	収入の部合計	3,679,309	3,294,449
	支出の部	人件費支出	467,784
教育研究経費支出		168,710	177,402
管理経費支出		61,251	59,749
借入金等利息支出		1,660	1,262
借入金等返済支出		15,910	9,270
施設関係支出		395,191	11,285
設備関係支出		29,523	46,025
資産運用支出		1,310,131	1,210,790
その他の支出		11,451	18,528
資金支出調整勘定		△14,644	△13,863
次年度繰越支払資金		1,232,342	1,264,848
支出の部合計		3,679,309	3,294,449

[2011年度決算概況]

1、資金収支状況：支払資金は前年比 32,505 千円の増加でした。主な要因は、収入総額においては大幅減少となったにも拘わらず、支出面において、施設関係支出が大幅に減少したことによります。資産運用支出は1年以内の短期運用資金であります。

2、消費収支状況：当年度の帰属収支差額は 142,530 千円の増加ですが、消費収支差額において支出超過 9,385 千円となりました。主な理由は人件費増と教育研究費の増加によります。

3、貸借対照表：総資産は全体として微増に留まりました。今期は前年に比して設備投資が殆んどありませんでした。負債の減少に比して、預金が微増しております。前期、今期とも基本金の増額が特徴です。

参考

年 度 比 較	2010年	2011年
固定資産構成比率	65.8%	64.8%
流動資産構成比率	34.2%	35.1%
固定負債構成比率	6.0%	5.5%
自己資金構成比率	88.8%	91.9%
総負債比率	11.2%	0.8%
固 定 比 率	70.1%	74.10%

消費収支の状況 (単位千円)

	科 目	2010年度	2011年度
消費収入の部	学生生徒等納付金	659,862	669,779
	手数料	12,906	12,646
	寄付金	10,620	10,042
	補助金	194,609	189,349
	資産運用収入	11,297	13,867
	資産売却差額	152,497	0
	事業収入	41,171	44,239
	雑収入	7,531	21,148
	帰属収入合計	1,090,493	961,070
	基本金組入額合計	△208,718	△151,915
消費収入の部合計	881,775	809,155	
消費支出の部	人件費	469,464	503,196
	教育研究経費	227,185	247,865
	管理経費	63,459	62,845
	借入金等利息	1,661	1,262
	資産処分差額	307	2,799
	徴収不能引当金繰入額	0	573
	消費支出の部合計	762,076	818,540
当年度消費収入超過額	119,698	0	
当年度消費支出超過額	0	9,385	
前年度繰越消費支出超過額	130,900	11,202	
翌年度繰越消費支出超過額	11,202	20,587	

貸借対照表の推移 (単位千円)

	前年度末	当年度末	
資産の部	固定資産	2,392,937	2,377,384
	流動資産	1,243,182	1,288,056
	(内、預金)	(1,232,341)	(1,264,847)
	資産の部合計	3,636,119	3,665,440
負債の部	固定負債	219,460	204,233
	(内、借入金)	(69,720)	(60,450)
	流動負債	188,341	90,360
	負債の部合計	407,801	294,593
基本金の部合計	3,239,520	3,391,434	
消費収支差額の部合計	△11,202	△20,587	
負債・基本金および消費収支差額合計	3,636,119	3,665,440	

新任（専任）教職員紹介 就任にあたっての抱負

短期大学



◆短大准教授
野田さとみ

4月より本学教員として、幼児の体育・保育内容指導法表現などを担当させていただきます。勤務するようになり改めて柳城卒業生の活躍を肌で感じるようになりました。諸先輩方にあこがれを持ち、夢に向かつて学ぶ学生たちに今必要なことは何かを考えながら、また自らも彼らから学ぶ姿勢を持って教育に取り組んでいきたいと思っております。



◆短大准教授
山脇 眞弓
長い歴史と充実した教育内容、長い間

培われた実績の基に、優秀な保育者を社会に輩出してきたこの伝統ある名古屋柳城短期大学で、教鞭をとることができるようになり大変うれしく思っています。私の授業では、学生一人ひとりが「子どもを心から愛し、優しさの中にも



◆短大講師
小島千恵子

昨年10月から柳城学院にお世話になっていきます。非常勤講師として3年間、毎週水曜日に通勤していたこともあり、新任という感じではありませんが、「心機一転」学生といつしよに山道 坂道 曲り道 草つばら でこぼこ道を一生懸命歩いて行こうと思えます。愛をもつて熱い教員として一歩ずつ進んでいきたいと考えています。



◆短大講師
水落 洋志
4月からお世話になっております水落

です。私の目標は、本学の学生が「どんな環境にも適応できる保育者」を養成することです。特に、健康や運動遊びの重要性から学生にアプローチしていきたいと思えます。また、何事にも価値を見出し、学生とともに価値ある無理を

附属幼稚園



◆豊田幼稚園
園長
岡野 尚子
“柳城”で学んだ日々が

懐かしく思い出されます。充実した授業と実習に加えて、友人や子どもたちとの信頼関係が、現在の自分の在り方とどこかでつながっているように思っております。

この度、再び「柳城」とのご縁に恵まれました。キリスト教保育を通して、世界を視野に入れた平和の実現を願い、実行していけるよう努めてまいります。



◆柳城幼稚園
教諭
田中友紀恵
今年度は年少組を担当させていただきます。

短大を卒業してから、今日まで、柳城幼稚園で様々なクラスを担当させて頂けることに感謝しています。今後、毎日元気いっぱいの子どもたちと過ごす日々を大切に、また日々感謝しながら、子どもと共に私自身も成長していきたいと思えます。



◆三好丘聖
マーガレット
幼稚園 教諭
伊藤二三香
年少たんぼ

ぼ組担任の伊藤二三香です。笑顔絶やさず、子どもたちに負けないうぐらい元気一杯過ごしたいです。子ども一人ひとりを大切に心から寄り添い、良き理解者になれるよう日々子どもたちの表情や行動を気に留めて保育していきます。また、保護者の方や同じ職場で働く先生方との出会いに感謝の気持ち忘れずに、子どもと共に私も一緒に成長していきたいと思えます。よろしく願います。



◆三好丘聖
マーガレット
幼稚園 教諭
石上 仁美

私は小学生のころから子どもと関わる仕事がしたいと思っていました。今年マーガレット幼稚園に就職し、なんと担任も持たせて頂くことができました。幼い頃からの夢が叶い、とても幸せです。社会人になり実際に働いてみると、あらゆることに責任をもって行動しなければならぬという意識を持てるようになり、子どもが楽しい幼児期を過ごせるよう、精一杯努めたいと思えます。

◎学院人事

〔法人・短大〕

退職 教員 野々宮 徹（教授・教学部長）

教員 鈴木 裕子（教授）

教員 成田 朋子（教授）

職員 塚田 一宣（法人事務局長・短大総務部長）

職員 宮嶋 英一（教学部顧問）

採用 教員 野田さとみ（准教授）

教員 山脇 眞弓（准教授）

教員 水落 洋志（講師）

教員 成田 朋子（特任教授）

退任 下原 太介（チャプレン）

就任 松本 勝

（法人事務局長・短大事務局長・総務部長）

鬻柳久美子（教学部長）

異動 職員 加藤 実治（経理課・総務課）

職員 武藤真由美（総務課・経理課）

職員 渡辺 敏光（総務課係長・経理課係）

職員 早川美智代（教学部付・就職課）

〔幼稚園〕

柳城幼稚園

採用 教諭 田中友紀恵（臨職・特任）

退任 大和田康司（チャプレン）

就任 野村 潔（チャプレン）

三好丘聖マーガレット幼稚園

退職 教諭 吉田 優子

教諭 吉永 有芽

採用 教諭 伊藤 二三香

教諭 石上 仁美

昇任 教諭 森次 幸代（特任・専任）

豊田幼稚園

退職 園長 鈴木はる美

採用 園長 岡野 尚子

退職にあたって



◆チャブレン 司祭ヨセフ 下原 太介
今でも毎週 水曜日になる

と、柳城の皆さんと共に過ごした、素敵な礼拝の時間を思い出します。2年間という本当に短い時間の中ではありましたが、私の心の中には皆さんとの素晴らしい数々の思い出が、今でも鮮明に刻まれています。贅沢かもしれませんが、皆さんとの心の片隅にでも、私が語った聖書の言葉が、私と皆さんとで共に祈った祈りの言葉が留まり続けていてくれたら、と思います。今でも、いつまでも柳城の皆さんのこと、お祈りしています。(上田聖ミカエル及諸天使教会牧師・聖ミカエル保育園園長。)



◆短大教授 野々宮 徹
専門教育に 多くの時間を 割かなければ

ならない私たちは、教養教育に不足感があるの否めません。解剖学者の養老孟司氏は、恩師中井準之助さんの言葉として「教養とは人の心がわかる心」といいます。



◆短大教授 鈴木 裕子
保育科としての 圧倒的な 環境と教育力

は類い稀な存在、これこそ「柳城ブランド」と、今、改めて感じています。心温かでエネルギー溢れる学生と楽しく過ごし、保育者養成と保育内容の研究に取り組めた15年は幸運であったというほかありません。少しだけ離れた場でも引き続き幼児教育に関わって歩みたいと思います。名古屋柳城短期大学の発展を祈念しつつ・・・心から感謝申し上げます。



◆法人 事務局長 塚田 一宣
感謝 柳城学院に

12年間もの長きにわたりお世話になりましたこと、心より感謝しております。西暦2000年、ミレ

ニアムの年に着任しました。その2年前、当学院は創立100周年を祝っていました。欧米の宣教師たちが一斉に全国各地に学校や病院を設立した時代に、我が柳城学院は産声をあげました。102年の伝統は、私にとってもとても重い意味を持つものでした。大学の危機が叫ばれ始めた時でしたが、「何としても柳城は22世紀を迎え、創立200年を祝うことのできる学校であるように」と願いました。以来12年間、柳城学院のためになるかどうか、を最優先に考えて取り組んできました。その間多くの方々にご迷惑をおかけしたことを、この紙面を通してお詫び申し上げます。人の想いと現実はずしも一致しませんが、多くの人が願ったことは実現すると信じております。

柳城学院が社会の一隅で光を発し続けていくことを、皆様と共に私も願っております。本当にありがとうございました。



◆教養部顧問 宮嶋 英一
柳城で15年 間もお世話に なりました。

その間3000人近い学生の皆様にお会いでき、良い思い出がいっぱいになりました。今後はアフリカの動物の話を中心に、環境保全の活動に携わって



◆豊田幼稚園 園長 鈴木はる美
豊田幼稚園 での5年間は

喜びに溢れた年月でした。子どもたちと保護者、教職員たちと過ごした日々は大切な思い出です。いつも応援してくださった皆様、ありがとうございました。縁があった出会い、素晴らしい感動を与えてくれた子どもたちに、心から「ありがとう」と言いたいです。柳城学院のご繁栄と皆様のご多幸をお祈りいたします。



◆三好丘聖 マーガレット 幼稚園教諭 吉田 優子
「この幼稚園で働くことは、私たちが選んだのではなく神さまに招かれてここにいますよ。」マーガレット幼稚園で働き始めた私は園長先生のこの言葉に何度救われたことでしょうか。そしてどんなに心が温かくなったことでしょうか。

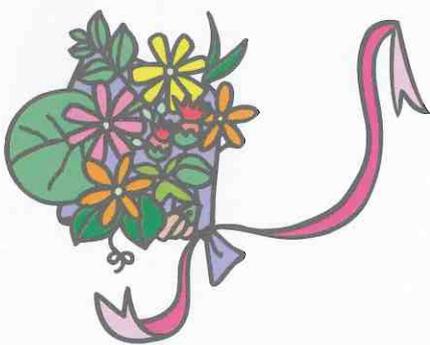
このマーガレット幼稚園でたくさんのお子どもたちと、保護者のみなさま、そして先生方と共に過ご

することが出来たことをとても感謝しています。ありがとうございました。



◆三好丘聖 マーガレット 幼稚園教諭 吉永 有芽
私は、幼稚園児のときに憧れの先生がいて、「先生になりたい!」と思い、志してきました。途中、悩んだり大変な時もありましたが、相談できる先生方がいる環境、そして何よりも子どもたちの笑顔にやっばり素敵な仕事だと思いました。

今では、卒園した子が「ゆめ先生のようにになりたい」と先生を志していると聞き、とても嬉しいです。この7年間本当にありがとうございました。



オープンキャンパスで名古屋柳城短期大学を体験してみよう!

本年度は、7月14日(土)、8月25日(土)、11月3日(土・祝)の3回、オープンキャンパスを開催します。

7月と8月は、入試内容についての説明、学生の体験発表、模擬授業、子どもの遊びやチャペル体験、相談コーナー等を、11月は学校祭(柳城祭)と同時開催で、校内自由見学や個別相談を予定しています。また、7月はAO入試説明会、8月と11月は小論文対策講座を実施します。さらに、保護者対象の説明会を開催していますので、保護者の方のお越しもお待ちしております。当日は、本学の大勢の学生がお越しいただいた方々をサポートします。

柳城の明るいアットホームな雰囲気を肌で感じていただける絶好の機会です。保育を志す方々のお越しをお待ちしています。また、日曜、祝日以外ではいつでもご見学、ご相談に応じています。この「学校見学」の申し込みが、パソコンや携帯から本学のホームページにアクセスして24時間、いつでも申し込みが可能になりました。是非、活用して、お気軽にご来校ください。

(お問い合わせ先) 入試広報課 TEL052-848-8281 (ダイヤルイン)

2012 オープンキャンパス情報

見て・聞いて・話して・感じてください 柳城を!!

第1回

7月14日(土)

いずれも13:00~16:30

第2回

8月25日(土)

柳城祭
同時開催

第3回

11月3日(土・祝)

10:00~15:00

主な当日の内容

- 学生の体験発表
- 模擬授業
- 造形あそび体験・紙芝居を楽しもう!
- 就職や入試、学生生活相談コーナー
- AO入試説明会(7月14日のみ実施)
- 小論文対策講座(8月25日・11月3日実施)
- 保護者対象説明会(7月14日・8月25日実施)

附属幼稚園情報

運動会

柳城幼稚園 10月20日(土)雨天時は22日(月)

豊田幼稚園 10月6日(土)雨天時は7日(日)

三好丘聖マーガレット幼稚園
10月6日(土)雨天時は7日(日)

新入園児お知らせ

入園説明会

柳城幼稚園 9月8日(土)

豊田幼稚園 9月8日(土)

三好丘聖マーガレット幼稚園
9月22日(土)

入園願書配布: 9月1日(土)~ 願書受付: 10月1日(月)~

子育て支援

各園にて子育て支援事業に取り組んでいます。ぜひお問合せください。

柳城幼稚園 (052)951-5080

豊田幼稚園 (0565)80-0198

三好丘聖マーガレット幼稚園 (0561)36-8373

愛知県下で保育者養成50年以上の伝統と実績を持つ、名古屋短大、岡崎女子短大及び本学の「保育系3短大」で合同研修会を実施することについて、平成23年度に学長間で合意し調印されました。保育施策について、保育者養成における職員のあり方や課題について情報を共有し、互いに研修を深めようというものです。

3月22日にその第1回となる研修会が、3短大から61人の事務職員に参加を得て名古屋短大を会場に開かれました。研修会では、「学生生活の活性化と就職指導」・「満足度の挑戦」(名古屋)、「地域連携と大学づくり」・「募集と就職」(岡崎)、「保育に特化した大学づくり」・「紙芝居を活用した教育研究プログラム」(柳城)と題し3短大からの実践報告がありました。引き続き行われた分科会では、教務・学生・入試広報・総務の4部門に分かれて情報交換を深めました。

短大をめぐる状況には厳しいものがありますが、保育者養成に力を入れている3つの短大が連携協力したら何ができるのか、今後の発展が楽しみな会ともなりました。

保育系3短大

合同SD研修会